

3 中央高地の農業例

山梨県峡東地域

「峡東地域の扇状地に適応した果樹農業システム」

世界農業遺産

日本農業遺産

峡東地域には、大小様々な扇状地があり、養分や保水力に乏しく稲作には適さないことから、ぶどうやももなどの果樹栽培が行われてきました。日本のぶどう栽培発祥の地といわれ、この地で約400年前に考案されたぶどうの棚式栽培は日本全国に普及しています。



山梨県峡東地域

(認定地／山梨市、笛吹市、甲州市)



ももやすももの花が咲き乱れる

◆ 峡東地域の地形と気候

峡東三市は甲府盆地の北東部に位置していて、多くの扇状地がみられる地域です。これは、関東山地から流れ出た河川が盆地に流れ込んでいるからです。扇状地の中腹部(扇央)は、小石などの礫が堆積しているため降った雨が地中にしみ込みやすい地質で、水はけがよい土壌を好む果樹の栽培に適しています。また、扇状地は斜面になっているため、陽当たりが良いことも果樹の栽培を助けています。夏と冬、また1日のうちでも昼と夜の気温差が大きく、降水量は比較的少なく日照時間が長い気候で、このような特性を生かした果樹栽培が行われてきました。

◆ 果樹栽培の歴史

峡東地域は、日本のぶどう栽培発祥の地とされ、ぶどう「甲州」という品種は、平安時代にはすでに栽培されていたともわれています。また、もも、すもも、かきなども少なくとも100年以上前から栽培され、江戸時代にはすでに果樹の産地として知られていました。また、江戸時代になって竹を使った棚でぶどうが栽培されるようになりました。“甲州式ぶどう棚”と呼ばれている方法です。元々ぶどうは乾燥を好む果物であるため、棚による栽培は風通しが良く、日本の多雨・湿潤な気候の中で安定した生産を行うための日本独自の技術です。現在は日本のぶどう栽培の基本技術となっています。

豆知識 扇状地のでき方

扇状地は河川が山間部から平地に流れ込む場所にできます。扇状地に堆積するのはコロコロとした礫で、水はけが良いという特徴があります。峡東地域は四方を山に囲まれている盆地のため、扇状地が多くできるのです。



甲州式ぶどう棚



ボルドー地方(フランス)のぶどう畑

ぶどうが棚から下がるように育てる方法は、ここから始まっていたんだ



◆ 地形に適した果樹農業の例

峡東地域では、狭い農地でも安定して高い収益を得るための多くの技術が開発されてきました。“甲州式ぶどう棚”もその一つです。また、家族経営が基本のため、作業時間を分散させるために複数の品目・品種を栽培しており、地域全体で300種以上に上ります。農家は傾斜や起伏、土壌などの立地条件に合わせて品目や品種を選定し、きめ細かい手作業により、世界最高水準まで高品質化を進めてきました。

また、果樹農業は、果樹の生産の他、ワイン醸造などの果実加工や約120年前に始まったとされる観光果実園などとともに発展しています。

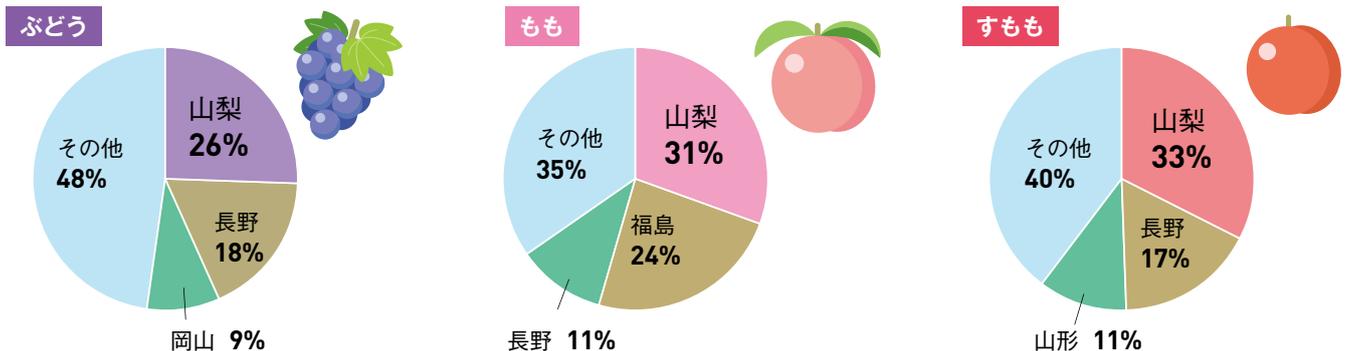


◆ 果樹の出荷量・輸出額

峡東地域において、現在農家が栽培しながら守っている品種は、ぶどうでは148種、ももでは86種以上になります。この中で、ぶどう38種、もも32種など、少なくとも80種は峡東地域で生まれた品種です。

峡東地域では総農家数の約85%が果樹を栽培し、2022年のぶどうの出荷量は国内の約26%、ももは31%、すももは33%を占めています。

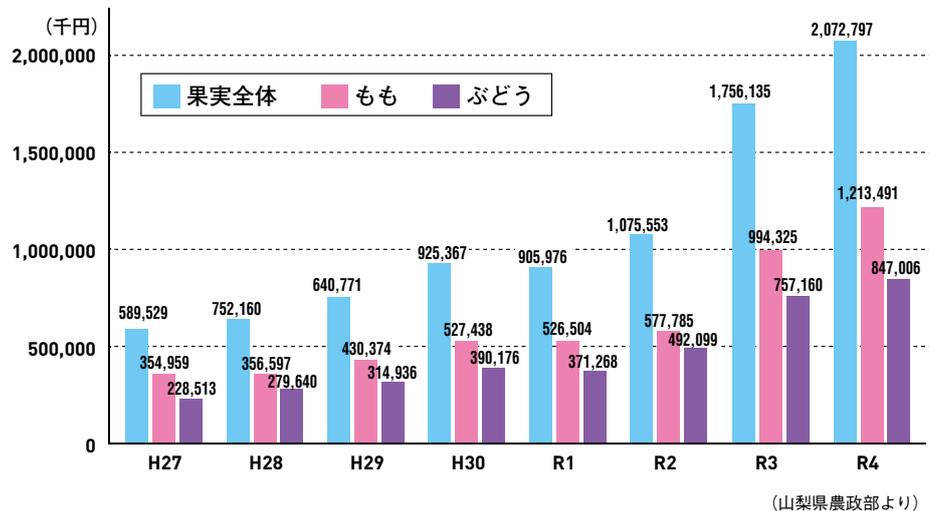
2022年 ぶどう、もも、すももの出荷量の割合



(農林水産省 統計資料より)

山梨県産果実の輸出額(令和4年)では、ももはおよそ58.5%、次いでぶどうがおよそ41%を占めています。輸出先では、香港が最も多く、次いで台湾、シンガポールと続きます。

山梨県産果実の輸出額の推移



考えよう!

扇状地においてぶどうの栽培が盛んな理由を、堆積物に注目して自分の言葉で説明しよう。



4 中部地方の農業遺産

9か所の地域が農業遺産に認定されています。



3 新潟県中越地域

日本農業遺産

「雪の恵みを生かした稲作・養鯉システム」 P.24

詳しく見てみよう!



5 山梨県峡東地域

世界農業遺産

日本農業遺産

「峡東地域の扇状地に適した果樹農業システム」 P.26

詳しく見てみよう!



6 岐阜県長良川上中流域

世界農業遺産

「清流長良川の鮎—里川における人と鮎のつながり—」

長良川は、鮎を中心とした漁業が盛ん。鵜飼漁をはじめとした伝統的な漁法が数多く受け継がれている。また、水源の森の育成や河川清掃など、人の管理によって清流が保たれることにより、美濃和紙や郡上本染などの水と密接なつながりのある伝統工芸が引き継がれている。

詳しく見てみよう!



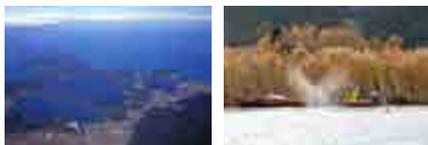
9 福井県三方五湖地域

日本農業遺産

「三方五湖の汽水湖沼群漁業システム」

湖を囲む山々から流れ出す淡水と日本海から流れ込む海水とが混ざり合う5つの汽水湖。竹竿で水面を叩いてフナ・コイを網で獲る「たたき網漁」や、熊手に似た漁具で大きい貝のみを獲る「シジミ漁」など獲りすぎない持続的な伝統漁法が受け継がれている。江戸時代から400年以上もの間、村同士の申し合わせや相互の監視により、水産資源を守ってきた。

詳しく見てみよう!



1 新潟県佐渡市

世界農業遺産

「トキと共生する佐渡の里山」

トキをシンボルとした「生きものを育む農法」を島内の水田で実施。トキの主なエサとなるドジョウなどが生息する水田では、1年を通して水辺を残し、多様な生きものが生息できる環境を整えている。生産の効率化だけでなく、環境に配慮し育てられた米は、ブランド化され、販売利益の一部をトキの保全活動に充てるなど、生きものと共生した持続的な農業が展開されている。



詳しく見てみよう!



2 石川県能登地域

世界農業遺産

「能登の里山里海」

自然と人の営みが調和する里山里海。暮らしが息づき、日本の農山漁村の原風景ともいわれる景観が見られる。急傾斜地に広がる「白米千枚田」などの棚田、日本で唯一能登にのみ残る「揚げ浜式製塩法」、里山の保全につながる「炭焼き」など、伝統的な農林水産業や農耕にまつわる祭礼が受け継がれている。

詳しく見てみよう!



白米千枚田

4 富山県氷見地域

日本農業遺産

「氷見の持続可能な定置網漁業」

魚が集まりやすい大陸棚が広がり、能登半島が冬の季節風を和らげるよい漁場で、網を仕掛けて魚を獲る「定置網漁業」が盛ん。特に「ひみ寒ぶり」が全国に知られ、定置網漁業は地域に雇用や水産加工などの産業をもたらししてきた。また、良好な漁場を育む「魚つき保安林」の保全のほか、嫁の実家にブリを送る「嫁ぶり」の風習や食文化など、海と深く関わる暮らしが今も続いている。



詳しく見てみよう!



7 静岡県掛川周辺地域

「静岡の茶草場農法」

世界農業遺産

静岡県の大井川流域に広がる山地、牧之原台地などの丘陵地で独自の伝統農法で茶を栽培している。茶畑の周りに点在する草地からススキなどの草を刈り取って、茶畑に敷くことで土が豊かになり、土の流出を防いでいる。また、定期的に草を刈り取ることで草地が維持され希少な生物が数多く生息している。



詳しく見てみよう!



8 静岡県わさび栽培地域

世界農業遺産

日本農業遺産

「静岡水わさびの伝統栽培—発祥の地が伝える人とわさびの歴史—」

静岡県の水わさび根茎の生産量は全国1位で、生産量の62%を占める*。この地域でわさび栽培が始まったのは約400年前の江戸時代初期で、世界で初めてといわれる。農作物の生産が難しい森林に囲まれた環境で、山の傾斜に沿って沢を階段状に開墾して石積みのわさび田をつくり、湧き水に含まれる養分で生産する技術が発展し、今に受け継がれている。



詳しく見てみよう!



* (令和4年 特用林産基礎資料より)

5章 関東地方

(茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県)

1 関東地方の地理的特徴と代表的な農林水産業

関東地方は約4000万の人々が暮らす、最も人口が多い地方です。日本最大の平野である関東平野を中心に関東山地や越後山脈、阿武隈高地に囲まれ、利根川、荒川、多摩川などの川沿いの広大な低地には水田が広がります。台地は箱根山や富士山の火山灰が堆積してできた赤土（関東ローム）におおわれ、多くは畑作地域になっています。都市向けに野菜や果物、牛乳、鶏卵などを生産する近郊農業が発展し、交通網の整備とともに生産地は都市周辺へ拡大していきました。



内陸部 P.30

内陸部は台地や山地が広がっています。冬は“からっ風”と呼ばれる冷たい北西風が吹き、乾燥していますが、夏は高温で蒸し暑く雷雨が多く発生します。

Q1 都市部などビルや住宅が広がる地域では気温が周囲より高くなる現象があります。なんとという現象？

- ① ヒートアップ現象
- ② ヒートアイランド現象
- ③ ヒートタウン現象

豆知識 近郊農業とは

市場に出荷する野菜や果物、花は新鮮さが求められるため、大都市近郊で行われている農業のこと。

南部沿岸

南関東を中心とする海沿いの地域は黒潮が近海を流れているため冬でも温暖なのが特徴です。房総半島や三浦半島では冬に観光農園で花摘みができることで知られています。

Q2 伊豆諸島と平均気温がほぼ同じ地域は？

- ① 南西諸島 ② 福岡市 ③ 鳥取県

豆知識 山間部の、群馬県嬬恋村では、キャベツ栽培が盛んな一方、多くの地域では農業が衰退し、地域から若者が都市部に流出し、高齢化と過疎が問題になっています。群馬県の上野村では、働き口を確保するなど若い世代が生活できる村づくりをした結果、UターンやIターンによる移住者が村の人口の2割を占めるまでになりました。



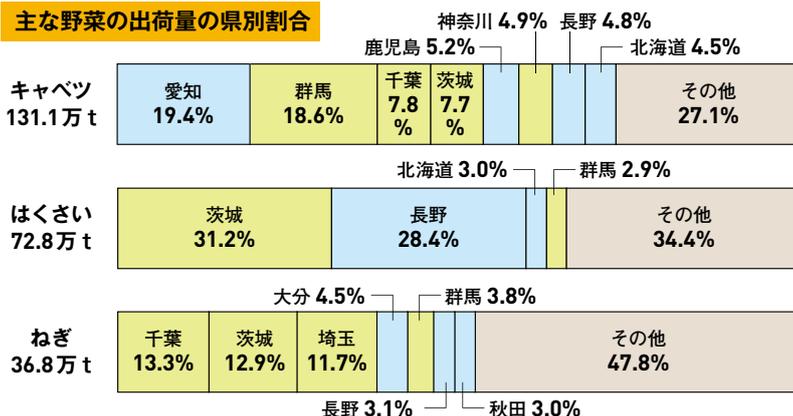
都市で生活する人々に向けて、いろいろな野菜をつくっているんだね

日本の面積・人口に占める関東地方の割合

面積 38万km ²	九州 11.8%	中国・四国 13.4%	近畿 8.8%	中部 17.7%	関東 8.6%	東北 17.7%	北海道 22.0%
人口 1.2億人	11.3%	8.6%	17.7%	16.7%	34.8%	4.1%	6.7%

(総務省統計局令和4年推計人口データより)

主な野菜の出荷量の県別割合



2 内陸部の農業例

埼玉県武蔵野地域

「大都市近郊に今も息づく武蔵野の落ち葉堆肥農法」

世界農業遺産

日本農業遺産

火山灰土に厚くおおわれたやせた土地に、江戸時代から木々を植えて平地に林を育てました。その林の落ち葉を集め、堆肥として畑に入れて農業ができる土をつくることで、さつまいもやほうれんそう、さといもなど多様な農作物の安定した生産を実現しました。



埼玉県武蔵野地域
(認定地／川越市、所沢市、
ふじみ野市、三芳町)



武蔵野の落ち葉堆肥農法が生み出す景観

◆武蔵野の落ち葉堆肥農法の歴史

江戸の急速な人口増加による食糧不足のため、川越藩が1600年代から開拓を行ったことから始まりました。台地で水が乏しい上に、火山灰土のため栄養分が少なく土が風に飛ばされやすいという、農業を行うには非常に厳しい地域でした。この自然条件を克服するため、見渡す限りの草原にコナラやクヌギなどの落葉広葉樹を植えて平地に林をつくり出し、この平林の落ち葉を堆肥として利用しました。集落全体で防風、土の飛散防止、地下水を保つなど複数の機能を持った農地の開発が行われました。

平地林などの土地利用は受け継がれ、大都市近郊でありながら、今なお持続的な農業が続けられています。その結果、希少な動植物が生息できる環境を保つとともに、特徴的な農業景観を生み出しています。



希少植物キンラン



農地と一体的に配置された平地林

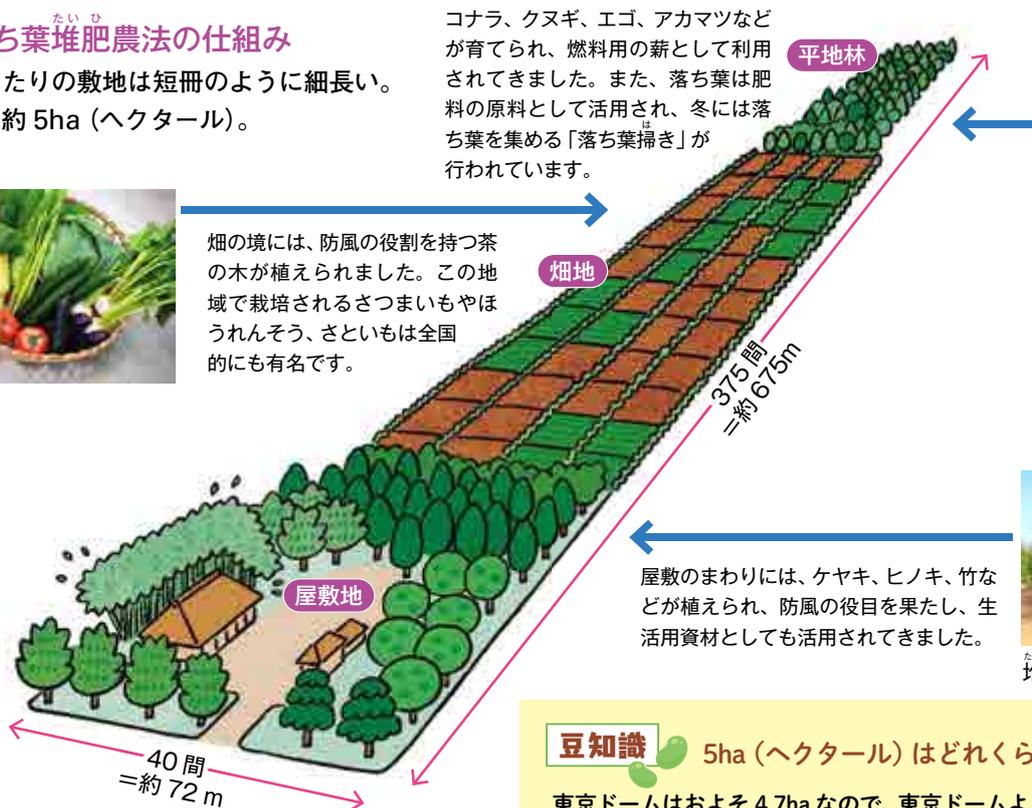
◆落ち葉堆肥農法の仕組み

一軒あたりの敷地は短冊のように細長い。広さは約5ha（ヘクタール）。

コナラ、クヌギ、エゴ、アカマツなどが育てられ、燃料用の薪として利用されてきました。また、落ち葉は肥料の原料として活用され、冬には落ち葉を集める「落ち葉掃き」が行われています。



畑の境には、防風の役割を持つ茶の木が植えられました。この地域で栽培されるさつまいもやほうれんそう、さといもは全国的にも有名です。



落ち葉を生み出す平地林



落ち葉掃き



堆肥場

豆知識

5ha（ヘクタール）はどれくらいの広さ？

東京ドームはおよそ4.7haなので、東京ドームより少し広いことになります。